

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
保育原理		保育・食育学科/2年	2020/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	山北 泰子
授業の概要				
保育の意義及び目的を理解し、保育者として子どもや保護者に関わるために必要となる基本的な視点や取り組みについて深める。法令及び制度としての保育所の役割や目的の理解とともに、保育所保育指針において保育の基本を理解し、保育の目的や意義を考察する。また、保育の思想や歴史を概観することから、現代の保育との関連性や現代社会の抱えている子どもの課題を考察する。				
授業終了時の到達目標				
保育所保育指針における保育の本や保育の歴史の変遷について学び、呆について基本的な内容を理解する。また、様々な保育を取り巻く環境をふまえ、保育の現状と課題について本質を探究でき、自分なりの見解を持つことが出来る。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		幼稚園教諭として19年勤務、副園長2年、副園長、園長(所長)兼任3年、専門学校、短期大学非常勤講師17年 乳幼児から学生指導までの現場経験を活かし保育者のあるべき姿を伝える。		
時間外に必要な学修				
事前にテキストに目を通し、関心を持った事柄については授業で協議の内容を深めるきっかけとする。				
回	テーマ		内容	
1	・保育とは ・乳幼児の特徴と保育の意義とは		・保護と教育 ・人間の子どもの特質と保育の必要性	
2	・乳幼児期の発達の特質 ・幼児の思考の特徴とは		・身体的、感覚的発達の特質 ・自我の発達と幼児の思考(言葉、情動、社会的発達)	
3	・保育思想と児童観の変遷		・古代、中世、近世から近代へ ・近代幼児教育思想の形成(児童観の転換)について	
4	・近代保育施設と制度の創設と発展 ・各国の保育を学ぶ		・創設、発展に寄与した代表的人物を知る ・各国の保育の発展と児童観	
5	・我が国における幼稚園、保育所の成立と変遷		・幼稚園、保育所の保育目的と規定および保育所の種類 ・保育内容の変遷と内容	
6	・保育の内容、方法、計画、評価		・保育の方法形態の分類について ・保育方法の基本原則について	
7	・保育の計画と記録のとり方		・教育課程と保育課程 ・カリキュラムの作成について	
8	・保育の計画と記録のとり方		・遊びの意義と子どもの実態把握について ・記録のとり方について	
9	・保育の評価とは		・指導計画の評価とは ・指導結果の評価について	
10	・保育の評価とは		・保護者との連携のとり方	
11	・様々な保育と課題について		・幼稚園と保育所の今後と主な動向 ・幼保一元化と認定こども園	
12	・保育の多様化と課題		・保育所民営化と保育への企業参入 ・地域子ども、子育て支援事業と内容について	
13	・保育の多様化と課題		・保育の多様化と課題についての協議	
14	・科目終末試験設題からの授業復習		・設題から課題を見つけ協議し、保育の本質を探究する。 ・協議する中で、保育に対する自分なりの見識を持つ。	
15	・公務員試験過去問からの授業復習		・過去問からの復習	
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・保育原理 ・現場の視点で学ぶ保育原理(教育出版) ・保育所保育指針・幼稚園教育要領 ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領(文部科学省・厚生労働省・内閣府) ・自作プリント		総合評価	100.0%	【採点内訳】 ・授業態度20% ・レポート20% ・期末テスト60%

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
子ども家庭福祉		保育・食育学科/2年	2020/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	尾崎 桃子
授業の概要				
子どもを取り巻く環境の変化や、子どもの犯罪・虐待、また家族機能の変化などによって、子どもの健やかな成長が妨げられている現状について自ら問題意識を持ち、児童家庭福祉における今後の課題としてどのように取り組んでいくべきか総括的に考察できる力を養う。また、「子どもの人権」を守るための児童家庭福祉の役割と課題について理解を深める。				
授業終了時の到達目標				
児童福祉の中における「保育」、「養護」の役割を知る。 児童福祉法における保育士の役割をしる。 児童福祉施設の役割を知る。				
実務経験有無		実務経験内容		
時間外に必要な学修				
児童に関する今後の課題について調べる				
回	テーマ	内 容		
1	現代社会における児童家庭福祉の理念と歴史的変遷	「児童」の捕らえ方 児童家庭福祉の理念		
2	''	児童家庭福祉の歴史的変遷		
3	現代社会と児童家庭福祉	小子化の進展・家庭のあり方		
4	''	子どもの貧困問題の深刻化・いじめをめぐる問題		
5	児童家庭福祉の制度と実施体系	児童福祉六法		
6	''	児童家庭福祉の行政と実施機関		
7	''	児童福祉施設とは		
8	児童家庭福祉と保育	児童家庭福祉の目的と児童の人権 子どもの発見		
9	''	保育とは・保育サービスの現状		
10	''	多様な保育ニーズへの対応		
11	児童家庭福祉の現状と課題	少子化と子育て支援サービス・母子保健サービス		
12	''	児童虐待防止・DV		
13	''	障害のある子どもへの対応		
14	''	少年非行等への対応		
15	児童家庭福祉の動向と展望	次世代育成支援と児童家庭福祉の推進		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
児童家庭福祉		総合評価	100.0%	【採点内訳】 60% 試験 20% 提出物 20% 授業態度

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
社会的養護Ⅱ		保育・食育学科/2年	2020/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位(16時間)	必須	尾崎 桃子
授業の概要				
社会的養護における児童の権利擁護や保育士等の倫理についてや、施設養護及び他の社会的養護を学ぶ。これらを基本として個々の児童に応じた支援計画を作成し、日常生活の支援、治療的支援、自立支援等の内容について具体的に学ぶ。また、社会的養護にかかわるソーシャルワークの方法の技術について理解し、福祉についての理解や認識を深める。				
授業終了時の到達目標				
社会的養護における児童の権利擁護や保育士等の倫理について具体的に学ぶ 施設養護及び他の社会的養護の実際について学ぶ 個々の児童に応じた支援計画を作成し、日常生活の支援、治療的支援、自立支援等の内容について具体的に学ぶ 社会的養護を通して、家庭支援、児童家庭福祉、地域福祉について理解や認識を深める				
実務経験有無	実務経験内容			
時間外に必要な学修				
社会的養護Ⅰで学んだ内容について再度学習しておく				
回	テーマ	内 容		
1	社会的養護における児童の権利擁護と保育士等の倫理及び責務	児童の権利擁護 保育士等の倫理綱領		
2	社会的養護の実施体系	施設養護の特性及び実際 里親制度の特性及び実際		
3	支援の計画と内容および事例分析	個別支援計画の作成		
4~5	"	日常生活支援・治療的支援・自立支援に関する事例分析		
6	社会的養護にかかわる専門的技術	保育士の専門性にかかわる知識・技術との応用		
7	"	ソーシャルワークにかかわる知識・技術とその応用		
8	今後の課題と展望	施設の小規模化と地域とのかかわり 社会的養護の課題と展望		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
プリント		総合評価	100.0%	【採点内訳】 60% 試験 40% 平常点

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
子育て支援		保育・食育学科/2年	2020/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位(16時間)	必須	尾崎 桃子
授業の概要				
現代のライフスタイルと福祉ニーズの変化に対応した社会福祉実践者が必要とされている。そこで、社会福祉で学習したことを基礎に、相談援助の目的を明確化し、児童福祉実践者としての専門的な「方法」を理解し活用できる専門技術を身につける。				
授業終了時の到達目標				
児童及び家族へのケースワークとグループワークが実践できる、児童及び家族の環境への介入ができる、保育士として求められる相談援助の理論と技術を習得する。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		病院にて援助業務を5年間 現場経験を活かして援助技術の方法等を事例を通して授業を行う。		
時間外に必要な学修				
社会福祉や児童家庭福祉の授業を再度学習する				
回	テーマ	内容		
1	相談援助の概要(1)	相談援助の理論、相談援助の意義、相談援助の機能		
2	相談援助の概要(2)	相談援助とソーシャルワーク、保育とソーシャルワーク		
3	相談援助の方法と技術(1)	相談援助の対象		
4	相談援助の方法と技術(2)	相談援助の展開過程		
5	相談援助の方法と技術(3)	相談援助の基本的技術		
6	相談援助の方法と技術(4)	相談援助の実践アプローチ		
7	相談援助の具体的展開(1)	計画・記録・評価、関係機関との連携		
8	相談援助の具体的展開(2)	社会福祉専門職、社会資源の活用		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
適宜プリント配布。		総合評価	100.0%	【採点内容】 60% 試験 40% 授業態度

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
音楽表現技術		保育・食育学科/2年	2020/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位(16時間)	必須	鈴木 佳美
授業の概要				
子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを音楽を通して豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
童謡の弾き語り(年少、年中、年長、春夏秋冬) 音楽理論 リズム打ち 合奏				
実務経験有無		実務経験内容		
有		<ul style="list-style-type: none"> ・ヤマハ音楽教室幼児化講師4年 ・障害児・障害者施設にて音楽療法2年 ・こども園にて、子育て支援、音楽指導1年 現在継続中 現場経験を活かし、音楽技術・表現方法・指導法を教える		
時間外に必要な学修				
弾き語りで発表する曲の練習 合奏のパート練習				
回	テーマ	内 容		
1~4	童謡合唱 理論 リズム打ち リトミック 合奏(グループ事に曲を決める) 弾き語り練習	アカペラで音程正しく、歌詞は覚えて歌う 復習 前に立ち、先生の役をする 先生の役をしてピアノを弾く(弾ける学生) パートを決め、音、リズムを考える		
5~8	グループに分かれ合奏の練習 発表する 弾き語り(季節事に選び4曲練習)	できればパート楽譜を作る 発表 時間に余裕があれば4曲発表 無理な場合、指定された曲を発表		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
ピアノ伴奏 保育のうた12ヶ月 やさしい楽しい器楽合奏集 リトミック百科 ピアノ曲集		総合評価	100.0%	【採点内訳】 合奏 30% 弾き語り 30% 授業態度 40%

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
幼児と造形表現		保育・食育学科/2年	2020/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位(16時間)	必須	中村 典子
授業の概要				
子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する。表現技術の一つとしての造形に関する知識や技術を学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
作品の制作・発表を通して、造形表現におけるコミュニケーション力をつける				
実務経験有無		実務経験内容		
有		専門学校講師 24年 中学校美術講師 2年		
時間外に必要な学修				
自己表現とコミュニケーション能力の形成についての考察				
回	テーマ	内容		
1~4	パペットシアター 1. パペットの下描き・ストーリー制作 2~3. 塑像(粘土)で動物の頭と手を作る 4. 舞台背景作り	<ul style="list-style-type: none"> ・ 5分程度で主な登場人物2名程度のストーリーを考える ・ パペット下描きは色鉛筆で着色 ・ 紙粘土を使って動物の頭と手を制作 ・ 絵具を混ぜ込むことでの混色や紙粘土成型を学ぶ ・ダンボールなどを使って家や森などの背景制作 ・ リサイクル工作を学ぶ 		
5~8	パペットシアター 5~6. パペット着衣制作 7. 舞台背景作り 8. パペットシアター発表会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 布を使ってパペットの服づくり ・ 縫わない服づくりを学ぶ ・ 笑顔で 大きな声で わかりやすい発表を練習する ・ 楽しいパペットシアターを体得する 		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
プリント配布		総合評価	100.0%	【採点内訳】 授業態度 20% 課題作品 70% 発表 10%

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
幼児と健康		保育・食育学科/2年	2020/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位(16時間)	必須	元木 倫子
授業の概要				
<p>今、子どもの運動に関する状況は二極化している。早い時期から特定のスポーツしかしない子どもたち、他方には、ほとんどからだを動かさない子どもたちいる。このような状態の中、保育士に子どもの発達に適した運動とは何かを的確に理解して、運動あそびを実践することが求められている。</p>				
授業終了時の到達目標				
<p>乳幼児期は、遊びの中で適切な量の運動と多様な動きを獲得することの重要性を知り、子どもの発達に適した運動を指導計画し、実際幼稚園や保育園で運動あそびの実践を行う。</p>				
実務経験有無		実務経験内容		
有		幼稚園、保育所にて体育指導20年 障害児の体育指導3年 現場経験を活かし運動の必要性について事例を通して伝える		
時間外に必要な学修				
テキストに目を通しておく				
回	テーマ	内容		
1	運動はなぜ乳幼児に大切か	運動能力の低下からみえてくるもの		
2		動きの発達と運動		
3	遊び・生活と運動	生活としての運動と遊びの中の運動		
4	運動指導のポイント	運動の量・質・安全について考える		
5	運動指導のポイント	援助の仕方、遊びの変化や発展を考える		
6	運動遊びの指導計画	指導立案、目的ねらいの確認		
7	運動遊びの指導リハーサル	内容・動き・援助の確認		
8	発表	保育者としての動きや援助を知る		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
保育と幼児期の運動あそび		総合評価	100.0%	【採点内訳】 授業態度 70% 提出物 10% 実技 20%

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
子ども家庭支援の心理学		保育・食育学科/2年	2020/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	木曾 真理絵
授業の概要				
生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題等について理解し、家族・家庭の意義や機能、親子関係や家族関係等について発達の観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。子育て家庭をめぐる現代の状況と課題について理解し、子どもの精神保健とその課題について学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
生涯発達と初期経験の重要性を理解する。 家族・家庭の理解や子育て家庭に関する現状と課題を理解する。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		幼稚園教諭10年 現場経験を活かし、子どもの発達からみて初期経験の重要性を伝える。		
時間外に必要な学修				
身近で出会う乳幼児をよく観察し、子どもの発達を学ぶ。				
回	テーマ	内容		
1~2	乳児期・幼児期の発達	原始反射・表情・運動発達(乳児期) 認知・言語・社会性・自我の発達(幼児期)		
3~4	学童期・青年期の発達	認知の発達・社会性の発達・自己発達(学童期) 身体の発達・認知に発達・自己の発達(青年期)		
5~6	青年期・中年期・高齢期の発達	身体の発達・認知の発達(青年期) 中年期危機とは・職業にかけける課題(中年期) 生涯発達における高齢期とは(高齢期)		
7	家族・家庭の意義と機能	家族とは		
8	家族関係・親子関係	家族のライフスタイル 親子とは		
9	子育ての経験と親としての育ち	子育て		
10	子育てを取り巻く社会的状況	晩婚化・非婚化・出産・子育て		
11	ライフコースと仕事・子育て	ライフコース		
12	多様な家庭とその理解	多様な家庭と家族		
13	特別な配慮を要する家庭	子育てが難しい母親の理解		
14	子どもの生活・生育環境とその影響	生活習慣と体質		
15	子どものこころの健康にかかわる問題	きになる子どもの障害		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
子ども家庭支援の心理学		総合評価	100.0%	【採点内訳】 試験 60% 授業態度 30% 発表 10%

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
子ども家庭支援論		保育・食育学科/2年	2020/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	西林 久美子
授業の概要				
子育て家庭に対する支援の意義・目的・役割を学ぶ。保育士の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について理解した上で、子育て家庭に対する支援の体制を学ぶ。子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状、課題について学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
子育て家庭に対する支援の意義・目的・役割を理解する。保育士の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本、子育て家庭に対する支援の体制を理解する。子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状、課題について理解する。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		児童デイサービス(現 放課後等デイサービス) 事業所 やったーまん!! 15年勤務		
時間外に必要な学修				
授業内容の復習、子ども子育てに関する新聞・ニュース記事を調べる。				
回	テーマ	内容		
1	家庭支援が求められる背景と意義について	家庭支援が求められる背景として家族の機能や地域社会の変化があげられ、家族と地域を育て結びつけていくことに意義がある。		
2	家庭と家族について	家族の形態や変動について。多様化する家族について。		
3	家族の機能について	家族の機能とは何か。近代化以前、近代化後、現代における家族の機能の変遷や、課題について		
4	子育て家庭を取り巻く地域社会の変遷について	近代化以前、近代化以後。現代における地域社会の変遷。		
5	家庭支援における保育者の役割について	家庭支援における保育者の様々な役割、保育所保育指針、幼稚園教育要領。保育者の姿勢について		
6	保育教育現場に求められる家庭支援について	子どもの保育教育と密接した保護者支援について		
7	在宅子育て家庭への支援について	在宅子育て家庭への支援の必要性、援助技術、姿勢について		
8	家庭支援に関わる法・制度について	子どもの権利条約をはじめ、子供や子育てに関する様々な法律や制度について		
9	子どもと家庭を支える機関や人について(1)	子どもと家庭を支える専門機関について		
10	子どもと家庭を支える機関や人について(2)	子どもと家庭を支える地域活動について		
11	子どもと家庭を支援する事業やサービスについて(1)	子どもと家庭を支援する事業の類型について		
12	子どもと家庭を支援する事業やサービスについて(2)	子どもと家庭を支援するそれぞれの事業について		
13	障害のある子どもと保護者への支援について	障害への気づき、神殿も困り感と家族の理解。多職種との連携について		
14	虐待家庭への支援について(1)	虐待事例の近年の傾向、発見・通告、保育者の役割について		
15	虐待家庭への支援について(2)	虐待事例での保護者への支援について		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
「よくわかる家庭支援論」第2版 ミネルヴァ書房		総合評価	100.0%	【採点内訳】 筆記試験 90% 授業態度 10%

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
幼児への特別な支援		保育・食育学科/2年	2020/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位(16時間)	必須	山北 泰子
授業の概要				
障害種ごとの症状、原因、心理、保育の留意点について理解する。特に幼稚園や保育所に多く在籍する知的障害を含む発達障害を中心に学ぶ。障害や発達の遅れのある子どもにおいては、特に配慮の必要性があることを理解し、感覚、身体、運動、知的情緒、対人関係等理解を深め、保育的援助を学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
子どもの心身の発達、脳の発達について理解を深め、障害児への理解また関心を持って取り組むことが出来る。障害種ごとの症状、原因、心理の理解するし、発達の变化を促す援助について考えることが出来る。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		幼稚園教諭として19年勤務、副園長2年、副園長、園長(所長)兼任3年、専門学校、短期大学非常勤講師17年、乳幼児から学生指導までの現場経験を活かし保育者のあるべき姿を伝える。		
時間外に必要な学修				
日常的に興味、関心を持つ障口の情報について調べる。				
回	テーマ	内容		
1	・ 障児保育とは何か	・ 保育現場にいる障害のある子ども ・ 障害のとらえ方と乳幼児期の発達課題と障害特性		
2	・ 障害児保育の仕組み	・ 障害児保育のあゆみと制度と形態について ・ 乳幼児健康診査と早期発見の重要性		
3	・ 障害の特徴と保育の実際 ・ 知的障害の特徴と保育での支援	・ 知的障害のとらえ方 ・ 保育現場における支援とは		
4	・ 自閉症スペクトラム障害の特徴	・ 障害のとらえ方と特徴と二次障害について ・ 個別配慮や小集団を利用した保育と支援のポイント		
5	・ 注意欠如、多動性障害の特徴と保育現場での支援	・ 障害のとらえ方と特徴について ・ 支援のポイントと二次障害について		
6	・ 学習障害の特徴と保育での支援 ・ 障害保育の体制づくり	・ 障害の種類と特徴と支援について ・ 保育所、幼稚園での支援体制とは(インクルーシブ保育)		
7	・ 支援の技法を学ぶ ・ 家族への支援と障害児へのアセスメント	・ 親、兄弟への支援 ・ 心理検査と愛着の評価		
8	・ 発達支援の技法	・ 療育とは(療育の現状) ・ 早期発見と早期療育の重要性 ・ 指導技法について		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・ よくわかる障害児保育(ミネルヴァ)尾崎康子・小林真・水内豊和・阿部美穂子編 ・ 自作プリント		総合評価	100.0%	【採点内訳】 ・ 授業態度20% ・ レポート20% ・ 期末試験60%

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
障害児保育		保育・食育学科/2年	2020/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位(16時間)	必須	山北 泰子
授業の概要				
<p>障害種ごとの症状、原因、心理、保育の留意点について理解する。特に幼稚園や保育所に多く在籍する知的障害を含む発達障害を中心に学ぶ。 障害や発達の遅れのある子どもにおいては、特に配慮の必要性があることを理解し、感覚、身体、運動、知的情緒、対人関係等理解を深め、保育的援助を学ぶ。</p>				
授業終了時の到達目標				
<p>子どもの心身の発達、脳の発達について理解を深め、障害児、の理解また関心を持って取り組むことが出来る。 障害種ごとの症状、原因、心理の理解。</p>				
実務経験有無		実務経験内容		
有		幼稚園教諭として19年勤務、副園長2年、副園長、園長(所長)兼任3年 専門学校、短期大学非常勤講師17年 乳幼児から学生指導までの現場経験を活かし保育者のあるべき姿を伝える。		
時間外に必要な学修				
日常的に興味、関心を持つ障害の情報についての事前学習。 事前にテキストに目を通す。				
回	テーマ	内容		
1~4	○障害児保育とは何か ○乳児期の発達課題と障害の特性 ○障害の特徴と保育での支援 ○障害児保育の体制づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育現場にいる障害のある子ども ・ 障害のとらえ方 ・ 障害児保育のあゆみ ・ 視覚障害、聴覚障害、肢体不自由児、言語障害 ・ 自閉症スペクトラム、注意欠如、多動性、学習障害 ・ インクルーシブ保育とは ・ 保育所、幼稚園での支援体制 		
5~8	○家庭への支援 ○発達支援の技法 ○まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 障害の子に向き合うとは ※ DVD視(自閉症の君が教えてくれた事)NHK放送 ・ 親、兄弟への支援 ・ 障害幼児の療育総論 ・ 療育の歴史、療育の状況 ・ 早期発見と早期治療と留意点 		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼稚園教育要領・保育所保育指針 ・ 幼保連携認定こども園教育・保育要領 ・ 参考資料配布 ・ よくわかる障害児保育 		総合評価	100.0%	【採点内訳】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業態度20% ・ 課題と試験60% ・ グループ協議への積極的参加20%

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
子どもの保健		保育・食育学科/2年	2020/通年	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	16回	2単位(32時間)	必須	西林 久美子
授業の概要				
子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解した上で、子どもの身体的な発育・発達と保健について学ぶ。子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解する。また、子どもの疾病とその予防法及び他職種間の連携・協働の下での適切な対応について理解する。				
授業終了時の到達目標				
子どもの身体的な発育・発達と保健について理解できる。 子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解できる。 子どもの疾病とその予防法及び他職種間の連携・協働の下での適切な対応について理解できる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		開業助産師として妊産婦や地域の子育て支援の経験を生かして、子どもの健康や疾病に関する知識を伝えていきたい。		
時間外に必要な学修				
子どもがかかりやすい病気について調べる。				
回	テーマ	内容		
1	免疫とアレルギー①	アレルギーとは、食物アレルギーについて		
2	免疫とアレルギー②	アトピー性皮膚炎 気管支喘息について		
3	子どもの慢性疾患	慢性疾患について理解する		
4	子どもの疾病とその予防 日常にみられる症状①	全身状態の観察、発熱、咳、くしゃみ、鼻汁、咽頭痛など		
5	子どもの疾病とその予防 日常にみられる症状②	口内痛、リンパ腫脹痛、頭痛、腹痛、吐き気、嘔吐、下痢など		
6	子どもの疾病とその予防 日常にみられる症状③	脱水症状、便秘、けいれん、意識障害、出血傾向、発疹など		
7	子どもの疾病とその予防	病児とその対応		
8	子どもの疾病とその予防	疾病予防、早期発見するために		
9	子どもの生活環境と精神保健	子どもの心身症を中心に		
10	子どもの心の健康とその課題	発達障害を中心に		
11	保育環境整備と衛生管理	保育現場における事故の特徴と事故防止対策		
12	子どものケガや事故への対応	保育現場における安全対策と危機管理		
13	児童福祉施設の保健活動	児童福祉施設の種類と特徴		
14	母子保健対策と保育	母子保健対策の現状		
15~ 16	まとめ	まとめ		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
テキスト		総合評価	100.0%	【採点内訳】 授業態度 30% 期末試験 50% 課題・レポート 20%

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
子どもの食と栄養		保育・食育学科/2年	2020/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	16回	2単位(32時間)	必須	久留嶋 典子
授業の概要				
<p>1. 小児期の栄養と食生活は生涯にわたる健康と生活の基礎であることを理解し、小児期から成人にいたる一貫した食生活の意義を理解させる。</p> <p>2. 食生活を通じて、生活全般や環境の望ましい姿を理解させる。</p>				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・小児期、思春期の心身発育と発達について説明できる。 ・食生活が人間の成長、生涯にわたる健康的な生活の基礎となることを理解し、バランスのとれた献立を考えることができる。 ・子どもが喜ぶ食育メニューを衛生的に作るができる。 				
実務経験有無	実務経験内容			
時間外に必要な学修				
<p>まずは、自分の食事バランスや生活習慣をより良いものにするために、目標を立ててみましょう。そして、すこしずつ実践してみてください。</p>				
回	テーマ	内容		
1	子どもの健康と食生活の意義	子どもや保護者をとりまく食生活の現状と課題について		
2	栄養に関する基礎知識	三大栄養素 五大栄養素について 食材を分類する		
3	栄養に関する基礎知識	栄養素の種類と機能について 炭水化物 脂質		
4	栄養に関する基礎知識	消化吸収のしくみ		
5	栄養に関する基礎知識	栄養素の種類と機能について 無機質 ビタミン		
6	栄養に関する基礎知識	栄養素の種類と機能について たんぱく質		
7	子どもの発育・発達と食生活	発育・発達の基本的考え		
8	乳幼児の授乳の意義と食生活	乳児期の栄養・食生活の特徴について 母乳、人工栄養について		
9~10	離乳の意義と食生活	基本の調理 お粥 出汁の取り方 茹でる 潰す		
11~12	間食の意義	スイートポテト ハロウィンスイーツ(かぼちゃプリン)		
13~14	保育における食育の意義・目的	粉からこねるピザづくり 見た目もカラフル栄養満点ピザづくり		
15~16	特別な配慮を要する子どもの食と栄養	食物アレルギー対応の米粉ロールケーキ フルーツジャム		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
子どもの食と栄養 北大路書房		出席率 課題・レポート 期末試験	40.0% 30.0% 30.0%	毎回、授業中に課題または小テストを出します。 期末試験は授業中に説明した内容から出題します。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
教育相談		保育・食育学科/2年	2020/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	木曾 真理絵
授業の概要				
「いじめ」「不登校」など子ども達の「こころ」をめぐる多様な問題や、児童虐待など親・養育者をめぐる問題が社会的課題となっている。そこで、子ども達の周りにいる大人達の役割や対応はどうあるべきかを学んでいく。また、カウンセリングの基礎知識を学び、保育現場において保育者がカウンセリング・マインドをもち、子ども達や親に対する基本的援助の方法を学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
教育相談の必要性を理解する。 相談技術を習得する。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		幼稚園教諭として10年勤務		
時間外に必要な学修				
保護者からのよくある相談を考える				
回	テーマ	内容		
1	教育相談の基本	教育相談の概要		
2	''	カウンセリングの基本 カウンセリングにおける共感		
3	教育相談と心理アセスメント技法	心理アセスメントの必要性和専門家との連携		
4	''	幼稚園・保育園児の心理アセスメント		
5	''	小・中学生の心理アセスメント		
6~7	子どもの自己理解を深める	子どもの自己表現 自己理解の発達		
8	幼児期の心理的援助及び保護者との相談	幼児期の教育相談の特徴		
9~12	''	幼児期の心理的援助および保護者との教育相談 グループワーク・ロールプレイ		
13	教育相談と家庭・学校・地域・社会	教育相談における家族のおかれた背景理解		
14	''	現代社会における家庭生活の変化		
15	''	教育相談における家庭と学校との連携		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
教育相談		総合評価	100.0%	【採点内訳】 期末試験 60% レポート 40%

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
保育の心理学		保育・食育学科/2年	2020/通年	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	16回	2単位(32時間)	必須	木曾 真理絵
授業の概要				
保育実践に関わる発達理論等の心理学的知識を踏まえ、発達を捉える視点について学び、心理学の基礎を習得し、養護及び教育の一体性や発達に即した援助の基本となる子どもへの理解を深める。				
授業終了時の到達目標				
乳幼児期の子どもの学びの過程や特性について基礎的な知識を習得し、保育における人との相互的関わりや体験・環境の意義が理解できる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		幼稚園教諭として10年間幼稚園に勤務		
時間外に必要な学修				
乳幼児期の発達段階を学習する。				
回	テーマ	内容		
1	発達における「遺伝」と「環境」	遺伝と環境が発達にどう影響するのか		
2~4	乳幼児期の遊び	乳幼児期における遊びとはどのようなものがあるか		
5	こころの理論	いつ頃相手の気持ちを理解できるようになるのか、関わりとこころの成長について		
6	道徳性の発達	ピアジェとコールバーグの考えについて		
7~8	エリクソンの発達理論	発達段階についての各時期における発達課題について		
9~10	友達関係	友達関係から学ぶことや役割について		
11	行動主義	学習理論について		
12~13	小学校との連携	連携における大切なことや課題について		
14~15	内発的動機づけ、外発的動機づけ	スキナーやパブロフなど		
16	まとめ	これまでの学習の復習		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
プリント		総合評価	100.0%	【採点内訳】 期末試験 70% 授業態度 30%

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
保育演習Ⅱ		保育・食育学科/2年	2020/通年	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位(60時間)	必須	中村, 尾崎桃, 木曾真, 元木倫
授業の概要				
実践的体験を通して保育技術を学ぶ。 協力や相談しながら、自分の意見が言えるようになるために、いろいろな経験をする。				
授業終了時の到達目標				
保育のネタを数多く自分のものにする。 保育技術を実践経験を通して身につける。 自分の意見を相手に伝える。				
実務経験有無	実務経験内容			
有	幼稚園教諭として幼稚園に勤務10年間			
時間外に必要な学修				
子どもたちが喜ぶ教材を調べる。				
回	テーマ	内容		
1	保育演習とは	保育演習とは 何を学ぶのか? 学ぶ姿勢について		
2~30	保育実践演習	保育現場で使用できる保育技術の習得 ・手遊び ・あやとり ・折り紙 ・教材づくり(ペープサート、手袋シアター、パネルシアターなど) ・製作後に実演(練習と発表) ・あなかれ保育園や近隣幼稚園と連携して保育実践を実施。		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
手遊び百科 適宜プリント配布		総合評価	100.0%	【採点内訳】 授業態度 60% 発表と提出物 40%

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
社会人基礎講座 I		保育・食育学科/2年	2020/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位(16時間)	必須	尾崎 桃子
授業の概要				
<p>働くとはどのようなことなのかをベースにライフサイクルと仕事について考えていく。また、社会人としての一般常識として次の内容を中心に授業を行なう。①ビジネスマナーの基本。②就業中のマナー。③指示の受け方と報告・連絡・相談。④話し方の基本。⑤敬語の使い方。⑤会議への参加。⑥電話応対。⑦来客応対と面談基本マナー。⑧仕事とIT。⑨ビジネス文書の基本。</p>				
授業終了時の到達目標				
社会人としての一般常識としての基本を習得する。				
実務経験有無		実務経験内容		
時間外に必要な学修				
一般常識について調べる。プリント熟読する。				
回	テーマ	内容		
1	働くとは	学校と会社の違いについて		
2	話し方	敬語の使い方		
3		報告・連絡・相談		
4~6	マナーについて	ビジネスマナー 来客の応対 電話の応対など		
7~8	文書	書類の書き方		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
テキスト		総合評価	100.0%	【採点内訳】 期末試験 60% 提出物 20% 授業態度 20%

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
レクリエーション理論		保育・食育学科/2年	2020/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	高吉 亮平
授業の概要				
基本的なレクリエーションの考え方を学び、介護の現場でどのようにレクリエーションを活用すべきかを学んでいく。				
授業終了時の到達目標				
レクリエーションの基礎的な考えを理解する。 利用者に合わせたレクリエーション計画を立案するための知識、理論の習得。				
実務経験有無		実務経験内容		
時間外に必要な学修				
テキストを熟読する。				
回	テーマ	内 容		
1	①レクリエーションの基本概念 1. レクリエーションの意義	レクリエーションとは何か、意義・目的などを学ぶ。		
2	2. レクリエーション運動を支える制度	レクリエーションに関連する制度について学ぶ。		
3	3. レクリエーションインストラクターの役割	レクリエーションインストラクターの役割について学ぶ。		
4	②社会福祉とレクリエーション 4. 現代社会の課題とレクリエーション	レクリエーション運動の公認指導者資格と認定登録制度について学ぶ。		
5	5. 福祉レクリエーションの考え方と役割	レクリエーション活動の楽しさを通してレクリエーション活動の重要性について理解する。		
6	6. 福祉レクリエーションの展開	社会参加を通してのレクリエーションの展開について学ぶ。		
7	③レクリエーション支援論 7. ライフスタイルとレクリエーション	個々人のライフスタイルに合わせたレクリエーションの展開について学ぶ。		
8	8. 地域とレクリエーション	児童や高齢者に対しての地域のきずなづくりについて学ぶ。		
9	9. レクリエーションにおけるリスクマネジメント	リスクマネジメントとは何かレクリエーションでのリスクは何かを学ぶ。		
10	④レクリエーション事業論 10. レクリエーション事業とは	レクリエーション事業とは何か、行政機関との関わりについて学ぶ。		
11~13	11. 事業計画 1			
14	14. 安全管理	レクリエーションの安全管理について学ぶ。		
15	15. レクリエーション理論まとめ	授業のまとめ		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
レクリエーション支援の基礎 適宜資料、プリント配布 楽しさをおした心の元気づくり レクリエーション支援の理論と方法		総合評価	100.0%	【採点内訳】 期末テスト：60% 授業態度：40%

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
レクリエーション方法		保育・食育学科/2年	2020/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位(16時間)	必須	元木 倫子
授業の概要				
1. 保育士、ソーシャルワーカーとして必要なホスピタリティマインドを身につけ、支援者として活用できる技術・能力を身につける。 2. 保育現場においてのスキル習得のために必要な実技練習				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・(財)日本レクリエーション協会認定レクリエーションインストラクターの資格取得 ・レクリエーション支援者としての基礎的知識を習得する。 ・保育現場で活用できるレクリエーション 				
実務経験有無		実務経験内容		
有		レクリエーション・インストラクターとして、幼稚園・保育所にてレクリエーション指導25年経験 障害児の体操指導3年 レクリエーション指導経験を活かし、発達に沿ったレクリエーション提供の方法を伝える		
時間外に必要な学修				
スケッチブックに、自分が提供したいと考えるレクを書き出す。				
回	テーマ	内 容		
1	コミュニケーション・ワーク	ホスピタリティ・トレーニング		
2	"	アイスブレイキング		
3	種目の実際	必修活動 ・音遊具 ・歌唱		
4	"	・レクリエーション財の分類 ・活動の分析		
5	"	アレンジの考え方と方法		
6	"	選択活動 ・インディアカ ・リハビリ体操		
7	"	・クラフト ・各種ゲーム		
8	支援実習	各自で演習を行い、発表する。		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
(財)日本レクリエーション協会出版 「やさしいレクリエーション実践」		総合評価	100.0%	(評価内訳) 授業態度: 60% 提出物: 20% 発表: 20%

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
保育レクリエーション		保育・食育学科/2年	2020/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位(16時間)	必須	元木 倫子
授業の概要				
1. 保育現場における保護者との親しむ場で役立つレクリエーション				
授業終了時の到達目標				
保育現場で使用できるレクリエーションの数々を習得する。 実際に保育を立案し、園で実施し、準備段階～実施までの過程においての学びを振り返る。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		幼稚園、保育所にて体育指導25年経験 障害児の体育指導3年経験 指導経験を活かして発達段階に沿ったレクリエーション指導を伝える。		
時間外に必要な学修				
実習で使える年齢に応じたレクリエーションの製作を考える。				
回	テーマ	内 容		
1	保育に生かせるレクリエーション	保護者と共におこなう運動あそび		
2	"	親子体操1		
3	"	親子体操2		
4	"	親子で作る製作活動1		
5	"	親子で作る製作活動2		
6	"	グループでゲームを立案		
7	実践	園で実施		
8	"	園で実施		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
適宜プリント配布		総合評価	100.0%	内訳 授業態度：60% 提出物：20% 発表：20%

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
手話		保育・食育学科/2年	2020/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位(16時間)	必須	尾崎 桃子
授業の概要				
聴覚障害者を理解するとともに、聴覚障害者とのコミュニケーション方法を知って、習得する。				
授業終了時の到達目標				
聴覚障害や手話の基礎知識を身につける。 指文字や手話を覚えて簡単な会話ができるようにする。				
実務経験有無	実務経験内容			
時間外に必要な学修				
聴覚障害について調べておく。				
回	テーマ	内容		
1	聴覚障害の基礎知識	耳の仕組みと聞こえの仕組み 難聴の種類		
2	"	聴覚障害者の生活 聴覚障害者とのコミュニケーション		
3~ 4	技術を身につける	指文字を覚える		
5	"	自己紹介をする		
6	"	簡単な会話をする		
7	"	曲を手話でおこなう		
8	発表	各自覚えた手話や指文字で発表する		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
プリント		総合評価	100.0%	【採点内訳】 発表 50% 提出物 30% 授業態度 20%

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
食と健康Ⅱ（栄養学）		保育・食育学科/2年	2020/前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	渡辺 宏子
授業の概要				
栄養と健康とは。 栄養にかかわる物質と人体とのかかわりの概要				
授業終了時の到達目標				
栄養素の消化吸収過程がわかる。 ライフステージ別の栄養がわかる。				
実務経験有無		実務経験内容		
時間外に必要な学修				
プリントを熟読しておく				
回	テーマ	内容		
1	栄養生理 食品の摂取	食品の摂取調節と栄養感覚		
2		食味と栄養感覚		
3	消化吸収および排泄	栄養素の消化		
4		栄養素の吸収		
5		栄養素の体内運搬		
6		体内での代謝		
7		体内からの排泄		
8	エネルギー 代謝	エネルギー代謝とは		
9		摂取エネルギー量と消費エネルギー量		
10	ライフステージと栄養 妊娠期・授乳期の栄養	妊娠期の栄養		
11		授乳期の栄養		
12	成長期の栄養	乳児期の栄養		
13		幼児期の栄養		
14		学童期の栄養		
15		思春期・青年期の栄養・高齢者の栄養		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
適宜プリント配布		総合評価	100.0%	総合評価（期末試験85%、課題提出物5%、授業態度10%）

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
食の科学		保育・食育学科/2年	2020/通年	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	16回	2単位(32時間)	必須	渡辺 宏子
授業の概要				
講義・実習				
授業終了時の到達目標				
おいしく安全に調理を行うための科学の基礎知識を身につける				
実務経験有無		実務経験内容		
時間外に必要な学修				
プリントを熟読しておく				
回	テーマ	内容		
1	食べ物のおいしさ	におい・味を感じるメカニズム 食べ物の味		
2	食べ物のおいしさ	食べ物の味		
3	〃	食べ物のにおい		
4	〃	食べ物の色		
5	〃	テクスチャー		
6～ 8	調理操作と調理機器	調理操作と調理機器(焼く・蒸す・煮る・揚げる等)		
9～ 12	植物性食品の調理科学	植物性食品		
13～ 16	動物性食品の調理科学	動物性食品		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
適宜プリント配布		総合評価	100.0%	総合評価(期末試験85%、提出物5%、平常点15%)

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
食の安心と安全		保育・食育学科/2年	2020/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	渡辺 宏子
授業の概要				
食品衛生の目的は「飲食に起因する衛生上の危害発生を防止し、公衆衛生の向上および増進に寄与すること」である。保育者を目指す学生として、食中毒発生や食品添加物、寄生虫、食品汚染についての基本的な知識を習得し、その予防方法、衛生管理など将来の保育士業務に活用できる知識を身につける。				
授業終了時の到達目標				
1. 食品の安全性について理解する。 2. 農薬と健康障害、ポストハーベストについて理解する。 3. 食品添加物について理解する。 4. 遺伝子組み換え、アレルギー物質、食品表示について理解する。 5. 食生活と食中毒について理解する 6. 衛生管理について理解する				
実務経験有無		実務経験内容		
時間外に必要な学修				
テキスト、プリントを熟読しておく				
回	テーマ	内容		
1	食品の安全・安心とは	食の安全・安心について 安心な食品とは	食の安全 リスクコミュニケーション	
2	農薬と健康障害	農薬の必要性	農薬の歴史	
3	農薬と健康障害 ポストハーベスト	農薬の安全性 水洗・調理による農薬の除去効果 ポストハーベストとは		
4	残留農薬等のポジティブリスト制度	ポジティブリスト制度		
5	食品添加物	食品添加物の分類 食品添加物の種類	食品添加物の使用基準	
6	食品添加物	食品添加物の表示免除 食品添加物の指定について		
7	食品添加物	食品添加物実験		
8	食品添加物	食品添加物実験		
9	遺伝子組み換え食品とは	遺伝子とは 遺伝子組み換え食品とは 表示の義務化	遺伝子組み換え技術とは 安全性義務化	
10	アレルギー物質、食品表示	アレルギー物質 食品表示		
11	食生活と衛生	食生活と食中毒		
12	食生活と衛生	食生活と食中毒		
13	食生活と衛生	食生活と環境問題		
14	食生活と衛生	身近な衛生と健康の知識 寄生虫について		
15	食生活と衛生	手洗い・衛生指導実験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
基礎からわかる・授業に活かせる食育指導ガイドブック プリント		総合評価	100.0%	期末試験85%平常点15%(授業態度5%、レポート提出10%)も考慮する

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
食育実習Ⅱ		保育・食育学科/2年	2020/通年	実習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	1単位(60時間)	必須	渡辺 宏子
授業の概要				
保育現場における食育の一部である調理の基礎を学び、食育指導者としての知識を深める。				
授業終了時の到達目標				
栄養の消化吸収過程がわかる。 ライフステージ別の栄養がわかる。				
実務経験有無	実務経験内容			
時間外に必要な学修				
事前にプリントを読み、次に作るものを確認し、わからない言葉を調べる。				
回	テーマ	内 容		
1～ 6	季節の食事	春・夏・秋の食事		
7～ 8	世界の料理	フランス料理		
9～ 10	世界の料理	エスニック料理		
11～ 12	郷土料理	香川の郷土料理		
13～ 14	郷土料理	県外の郷土料理		
15	野外クッキング	献立作成		
16～ 23	野外クッキング	野外クッキング準備・野外クッキング		
24～ 25	行事食	クリスマス料理		
26～ 27	行事食	お正月料理		
28～ 29	行事食	ひな祭り		
30	行事食	こどものおやつ		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
適宜プリント配布		総合評価	100.0%	総合評価(実習実技評価90%、提出物10%)

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
保育実習事前事後指導 I		保育・食育学科/2年	2020/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位(16時間)	必須	木曾真, 尾崎桃
授業の概要				
<p>保育所実習の意義・目的を理解する。実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする。保育所の子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解する。実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題や目標を明確にする。</p> <p>施設実習の意義・目的を理解する。実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする。施設の利用者の人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解する。実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題や目標を明確にする。</p>				
授業終了時の到達目標				
<p>実習事前準備をおこなう。(指導案の立て方、日誌の書き方、子どもの見方、保育園・施設の業務内容について)</p> <p>保育技術を学ぶ。(手遊び、動揺、ペープサートなど)</p> <p>援助技術を学ぶ。(コミュニケーション、共感、傾聴など)</p> <p>実習後の振り返りから今後の課題を振り返る。</p>				
実務経験有無		実務経験内容		
有		幼稚園教諭10年 援助業務5年		
時間外に必要な学修				
実習園・施設の研究とともに教材準備				
回	テーマ	内容		
1	保育実習の意義と目的	保育実習とは何か 基礎、基本から学ぶ		
2	保育所保育指針	保育所の保育について		
3	子どもの発達過程 保育実習の内容と方法と記録	0歳から5歳まで 保育の組み立て方と指導案の作成		
4	振り返り	実習の反省と次回の課題		
5	施設とは	様々な施設の概要について学ぶ		
6	コミュニケーション 障がいについて	関わり方の注意点や障がいについて学ぶ		
7	施設実習の記録の書き方	考察について		
8	振り返り	実習の反省と次回の課題		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
保育士保育指針 保育士保育指針(解説書) プリント		総合評価	100.0%	【採点内訳】 事前準備(保育) 25%(施設) 25% 事後指導(保育) 25%(施設) 25%

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
保育実習Ⅰ（保育所）		保育・食育学科/2年	2020/後期	外部実習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	45回	2単位（90時間）	必須	木曾 真理絵
授業の概要				
<p>保育所の役割や機能を具体的に理解するとともに、観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深める。既習の教科目の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に理解する。また、保育の計画・観察・記録及び自己評価等についてや、保育士の業務内容、職業倫理について具体的に理解する。</p>				
授業終了時の到達目標				
保育所での生活を体験することで、その位置づけを体験する。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		幼稚園教諭として10年勤務 保育現場の経験を活かして実習指導を行う。		
時間外に必要な学修				
保育園でどんな保育がされているのかを調べる。				
回	テーマ	内容		
1～2	保育所の役割と機能	保育所における子どもの生活と保育士の援助や関わり 保育所保育指針に基づく保育の展開		
3～41	子どもの理解、保育内容・保育環境 保育の計画・観察・記録 専門職としての保育士の役割と職業倫理	子どもの観察とその記録による理解 子どもの発達過程の理解、子どもへの援助や関わり 保育の計画に基づく保育内容、子どもの発達過程に応じた保育内容 子どもの生活や遊びと保育環境、健康と安全 全体的な計画と指導計画及び評価の理解 記録に基づく省察・自己評価 保育士の業務内容、庄印鑑の連携・協働		
42～45	責任実習	全日実習・研究保育		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
「保育実習事前事後指導」		総合評価	100.0%	【採点内訳】 評価については、実習指導者の評価と担当教員の評価を考慮した上で採点を行う。 実習指導者 40% 担当教員 60%

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
教育実習		保育・食育学科/2年	2020/後期	外部実習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	45回	2単位(90時間)	必須	木曾 真理絵
授業の概要				
幼稚園における教育実践について専門教育科目で獲得した幼児教育に関する知識、技能を活用しながら体験的にまた総合的に認識を深め、幼児教育に関わる理論と実践を統合していくことをねらいとする。				
授業終了時の到達目標				
幼稚園の機能と幼稚園教諭の職務について学ぶ 子どもの実態を知り、それに適した援助について学ぶ 日々の体験、評価、反省を通して、次の実習に向けての自己課題を明確にする				
実務経験有無		実務経験内容		
有		幼稚園において10年勤務 実習先において幼稚園教諭が現場で実習指導を行う。		
時間外に必要な学修				
実習先の子どもたちに沿った遊びを考え、どんな流れで保育を提供するのかを考える。 また、保育現場で必要な教材を作る。				
回	テーマ	内容		
1~44	幼稚園実習	幼稚園の役割を知る 保育の1日の流れを理解し参加する 子どもの観察やかかわりを通して幼児の発達を理解する 教育課程、指導計画を理解する 観察したこと、子どもとのかかわりの中で感じたこと、理解したことを記録する。 生活や遊びなどの一部分を担当し、保育技術を実践的に理解する		
45	研究保育と振り返り	部分・全日・研究保育		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
なし		総合評価	100.0%	【採点内訳】 評価については実習指導者の評価と担当教員の評価を考慮したうえで採点を行う 実習指導者 40% 担当教員 60%

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
音楽演習 I A (ピアノ)		保育・食育学科/2年	2020/通年	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位(60時間)	必須	濱崎 永美子
授業の概要				
福祉に進む学生も、実習等に行って困らない程度の弾き歌いを身につける。 余裕を持って、現場に臨めるようにする。				
授業終了時の到達目標				
15曲を弾き歌いできるようにする。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		ピアノ教室で指導歴あり		
時間外に必要な学修				
ピアノに触れる				
回	テーマ	内容		
1~28	各自のペースで練習	各自のペースで課題曲を練習し、合格をもらってから次の曲に進んでいく		
29	発表 1	課題曲の中から		
30	発表 2	課題曲の中から		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
「こどものうた100」「こどものうた12か月」		総合評価	100.0%	【採点内訳】 課題曲 50% 自由曲 40% 平常点 10%

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
音楽演習ⅠB(器楽・声楽)		保育・食育学科/2年	2020/通年	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位(60時間)	必須	鈴木 佳美

授業の概要

保育の内容を理解し展開するために必要な知識や技能を習得させる。
音楽に関する基本的な知識や技能を身につけ、それらに関する様々な活動を通して楽しさや喜びを体験し、保育の中で取り扱う教材やそれらを展開するために必要な知識や技能を習得させる。

授業終了時の到達目標

人前で大きな声で表情豊かに歌い、子供たちに歌う楽しさを伝えられる実力を身につける。
保育園、幼稚園歌われている曲を弾き語り、アカペラで歌える。
コーラスをしたり、楽器の正しい使い方を知り、アンサンブルを楽しむ。
オペレッタの一部分を体験する。

実務経験有無 実務経験内容

有 障害児・障害者施設にて音楽療法を2年間
現場経験を活かして、音楽で表現する楽しさを伝える。

時間外に必要な学修

色々な楽器に触れる

回	テーマ	内容
1	発声練習	コーリューブンケン
2	発声練習・こどもの歌	コーリューブンケン コンコーネ5
3	発声練習・こどもの歌	おつかいありさん ぶんぶんぶん 等
4	こどもの歌	こいのぼり とけいのうた 等
5	"	たなばた うみ 等
6	"	いぬのおまわりさん ホ!ホ!ホ! 等
7	"	おおきな栗の木の下で バスごっこ 等
8	"	きのこ ドロップスのうた 等
9	"	そうだったらいいのにな こぎつね 等
10	"	北風小僧の勘太郎 たのしいね 等
11	"	ゆかいにあるけば コンコンクシャンのうた 等
12	"	クラリネットをこわしちゃった かわいいかくれんぼ 等
13	"	はしるのだいすき ともだちさんか 等
14	"	おはなしゆびさん あめふりくまのこ 等
15	"	世界中のこどもたちが おおきなふるどけい 等

回	テ ー マ	内 容		
16	"	みなみの島のハメハメハだいおう さんぼ 等		
17	"	おんまはみんな あおいそらにえをかこう 等		
18	"	アイスクリームのうた しゃぼんだま 等		
19	"	おばけなんてないさ ゆうやけ 等		
20	"	むらまつり おどろうたのしいポーレチケ 等		
21	"	そうだったらいいのにな あわてんぼうのサンタクロース 等		
22~ 28	こどもの歌 合奏	童謡		
29	発表 1	課題曲・自由曲・合奏		
30	発表 2	課題曲・自由曲・合奏		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
音楽Ⅱ、こどもの歌 合奏楽譜百科, コーラスの楽譜		総合評価	100.0%	【採点内訳】 合奏 60% 授業態度 40%